

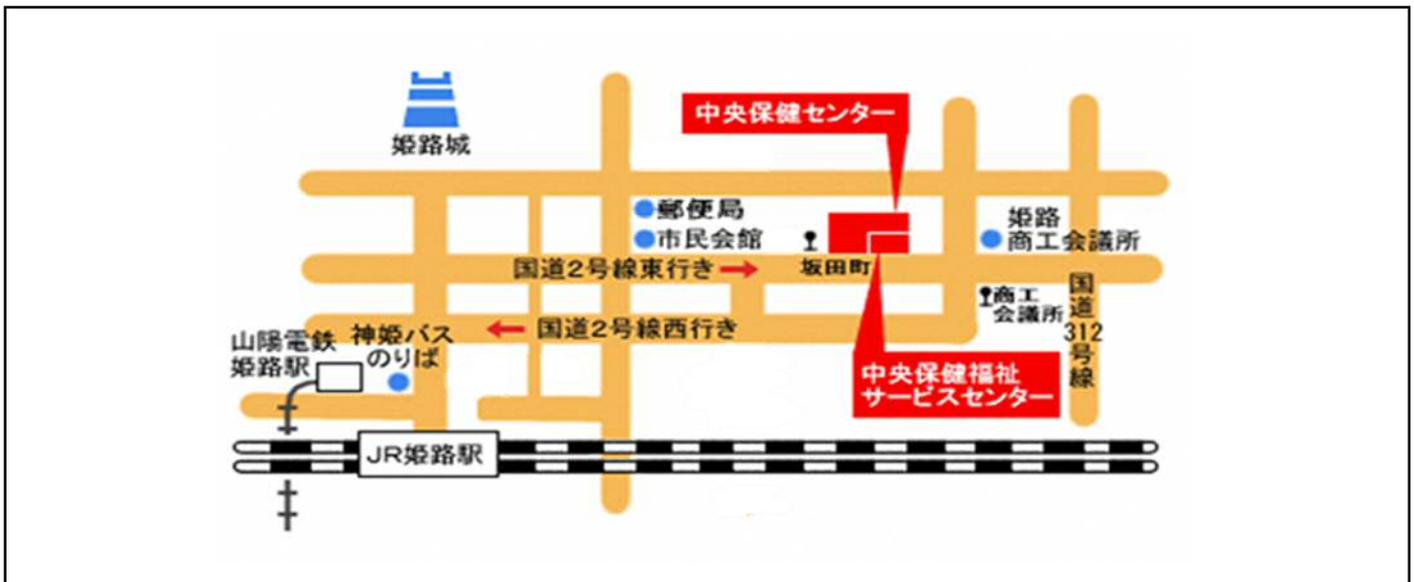
## 地域包括支援センター適正運営評価 基本調査票

### 【地域包括支援センター概要】

センター名称	姫路市城乾・東光地域包括支援センター
法人名	社会福祉法人 姫路市社会福祉協議会
所在地	〒670-8530 姫路市坂田町3番地(中央保健センター内)
電話	079-289-1703
FAX	079-289-1638
ホームページURL	<a href="http://www.himeji-wel.or.jp">http://www.himeji-wel.or.jp</a>

### 【センターの案内】

センターまでの交通手段	神姫バス 「別所駅」「鹿島神社」「夕陽ヶ丘」行き、「坂田町」下車 「日出町」行き、「商工会議所前」下車 いずれも、姫路駅北バスターミナル発 いずれも、姫路駅北バスターミナル発
-------------	---



### 【センターが所在する地域の特徴・特性】

担当校区(城乾・野里・城東・東)は、姫路市中心部に位置しており、高齢化率は、4校区ともに市の平均を上回っています。担当校区で生活している65歳以上高齢者世帯の内、約半数が高齢者夫婦・単身世帯です。

城東校区、東校区には大きな公営住宅があり、単身高齢者や外国籍の住民が多く居住しています。エレベーターのない集合住宅は、住民が高齢になり身体機能が低下するとともに生活の不便さが増しています。また近隣の店舗が閉店し、食料品や日用品の購入等日常生活を送るうえでも不便さを実感することが多くなっています。

城乾校区には、山の開発により宅地化された住宅街の高齢化が進んでおり、急な坂道に面した戸建てに高齢者のみが生活する世帯も増えています。

野里校区は古くからの街並み、商店街を中心ですが、高齢化により空き家が増えたり、店舗の閉店も増えています。

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

①幅広い年代の地域住民に、地域包括支援センターを知ってもらえるよう啓発活動を行っています。ふれあい食事サービスや民生定例会には、毎月参加しています。

②地域住民との関係性を深め、地域包括支援センターへの相談がしやすくなるよう啓発活動に取り組んでいます。年4回ほうかつだよりを発行し、警察や郵便局、薬局、スーパーマーケット、金融機関等に持参し、情報交換を行っています。また職員の似顔絵チラシや地域支えあい会議の啓発チラシ、城乾・東光地域包括支援センター独自の啓発チラシを作成し、窓口に設置したり、機会あるごとに配布して地域住民に届けるよう意識しています。結果、地域からの相談件数も増加しています。

③認知症相談に対応し、必要な受診やサービスにつなげるとともに、地域住民の認知症への理解を深める取り組みを進めています。具体的なケースを通じて、地域住民や医療機関等との協力体制が築かれています。認知症地域支援推進員が、チラシの配布や認知症ケアパスを活用し、周知啓発を行っています。

### 【令和5年度末の担当圏域の目指す姿】

①いきいき百歳体操、認知症サロンなどの通いの場が全校区で継続開催できています。

②各校区で地域支えあい会議の開催要望が、地域住民やケアマネジャーからあがるようになります。

③生活支援体制検討会議が全校区で開催、継続できています。

④認知症サポーター養成講座受講者が、通いの場で活躍できるよう支援します。

## 地域包括支援センター適正運営評価 評価意見書(総評)

センター名称	姫路市城乾・東光地域包括支援センター
評価調査者名	三木勝子 北野 香 高原洋一

### 【第三者評価で確認した特徴的な取り組み、工夫点】

地域住民との顔の見える交流、会話、総合相談を含めてコミュニケーションを大事にして活動されています。管理者を中心に、それぞれの専門知識と経験を活かし、現状の把握、分析をされて課題を明確にし、そのためにすべき方向性を全員で確認し行動されています。また、準基幹としての地域の8か所の地域包括支援センターの後方支援や相談先として、生活支援体制検討会議の開催支援など、精力的に実行されています。職員の知識、相談対応能力の向上など、各方面での内部研修と外部研修の受講も積極的にされ、朝礼の時間を利用して全員で共有もされています。業務の効率化を図ると同時に、人間対人間の繋がりを大切に、地域住民と一緒に課題に取り組まれています。

### 【第三者評価で確認した次のステップに向けた気づきや取り組みを期待したい点】

○認知症サロンやいきいき百歳体操へ、参加したいができない方、参加したくないが心身共に弱って来られている方、男性高齢者の単身世帯などに対するアプローチに期待します。  
○小中学校での認知症サポーター養成講座の開催や、継続的な地域包括支援センターの取り組みや認知症に対する知識を広めること。子育て世代も含めたアプローチに期待します。  
○認知症サロンやいきいき百歳体操など地域のさまざまな活動を一緒に主導していただける次の世話人候補の発掘、育成にも期待します。

### 【市民(住民)からの意見やコメント】

○あんしんサポーターの登録の推奨とマッチングが大変でしょうが、期待しています。  
○認知症の理解と地域の通いの場の増設、皆が行きやすいところへの増設に期待します。

### 【評価結果に対する地域包括支援センターのコメント】

地域包括ケアシステムの構築を目指し、医療機関や自治会、民生委員等地域とのつながりを密接に行います。介護サービスだけではない高齢者の相談窓口という地域包括支援センターの役割を地域住民に発信していきます。通いの場の増加や多世代へのアプローチ、地域のコミュニティ力を高めることなど、生活支援体制検討会議等で地域住民と共に考え、取り組んでいきます。

		地域包括支援センターの体制確保
評価項目・着眼点		(基本的な考え方) 地域包括支援センターは地域包括ケアシステムのコーディネーターとして、高齢者分野の困りごとを地域で受け止める役割を果たすものであり、地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割として地域で認識されることが必要です。
		地域包括支援センターの周知
	①	地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割を持っていることを地域で認識されるようになる。
	②	専門性を生かした地域包括支援センターの運営 専門知識、対応力を備えたセンターのスタッフの確保と人材育成を図る。
	③	地域包括支援センターの業務の効率化に向けた取り組み オンラインミーティングをはじめとする業務のICT環境の整備や事業の整理・統合など、業務の効率化に向けた取り組み
センター記入欄	取り組みの状況	①地域の小学校や郵便局、交番、医療機関等へ地域包括支援センターのパンフレットを持参し、啓発活動を行っています。また、民生定例会やいきいき百歳体操等の場には定期的に出向いて、啓発活動に取り組んでいます。 ②総合相談は、チームで協議したうえで対応方針を定め対応しています。経験年数の少ない職員は、先輩職員と一緒に総合相談の対応を行い、学ぶ機会を創出しています。 ③研修の受講及び会議参加は、ZOOMも活用して積極的に参加しています。
	現在課題と感じていること	①民生委員から個人情報の共有に関して、もっと開示して欲しいという声があります。 ②専門性や経験値が一定求められる支援を行っていますが、経験年数が少ない職員もいる為、職員の相談援助力にばらつきが生じてしまいます。 ③相談件数及び業務が増加傾向にあるため、更に業務の効率化を図る必要があります。
	目標達成のための今後の取り組み	経験の浅い職員が、安心して相談援助に取り組めるよう先輩職員がサポートできる体制を引き続き整えます。ケースの進捗状況は、毎朝の朝礼や毎月のミーティングで共有するとともに、報・連・相を密にして互いにカバーしあえる環境を整え、業務の効率化に努めます。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	民生委員の定例会に毎回2名体制で参加し、総合相談などにつないでケースに必要と思われる専門職、複数で対応されています。民生委員との地域情報について問題点を共有し、事例についての相談が出ることで連携が深まっています。 準基幹として、8つの地域包括支援センターを管轄し、生活支援体制検討会議開催などの支援や問題事例に当たって共有し、市に報告されています。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	新型コロナウイルス感染症があけていくにつれて、相談件数が急に増えており、内容も重要な問題となっており、対応に追いつけていない状況がうかがえます。職員全体の意識も高く、互いの連携に努められ、改善に努められていくことを期待します。

評価項目・着眼点	基本目標1:生きがいを感じながら暮らすための支援の充実	
	(基本的な考え方) 人生100年時代、介護予防に努め、いつまでも自分らしく、生き生きと暮らすことが大切です。そのために、身近な地域活動への参加を増やし、継続することが必要となります。その生活スタイルを周知するとともに、地域活動の場へ通い続けることができる環境づくり、地域で役割をもって暮らすための地域づくりに取り組みます。	
		介護予防に関する認識の変革
	①	85歳以上の高齢者に対し、「通いの場」である「いきいき百歳体操」と「認知症サロン」への参加促進を行い、フレイル予防につなげる。 市民向け講座などでフレイル予防に関する啓発・周知を進めフレイルの危険因子を持つ人等を早期に発見する取り組みを進める。
	高齢者が通える場があるまちづくり	
②	介護予防への意識が高くない高齢者を通いの場に誘導するとともに、フレイル等で通いの場への参加が中断することを予防するための取り組みを充実させる。	
センター記入欄	取り組みの状況	①ふれあい給食やサロン、民生定例会等で、フレイルチェックを行い、フレイルについての啓発に取り組んでいます。 ②ふれあい給食やサロン等に出向き、いきいき百歳体操の効果を伝え参加勧奨を行っています。また、いきいき百歳体操に長期欠席している方については、本人に連絡したり、いきいき百歳体操世話人や参加者から情報収集を行う等して、フォローに努めています。
	現在課題と感じていること	①通いの場だけでは、フレイル対象者を早期発見することは不十分だと感じています。 ②お試しで、いきいき百歳体操に参加しても、継続して参加するまで至らないケースが多い現状があります。いきいき百歳体操の効果に対する住民の理解がまだまだ不十分です。
	目標達成のための今後の取り組み	①通いの場でフレイルについて啓発・周知に取り組むとともに、ほうかつだよりを活用して、地域住民に広く周知します。また、認知症サロン等で、地域住民向けの勉強会を行い、フレイル予防につなげます。 ②いきいき百歳体操の長期欠席者やいきいき百歳体操世話人等から得た情報を整理し、欠席理由等の課題分析に取り組みます。また、コロナウイルス感染症のために、休止した通いの場へ働きかけ再開に向けて働きかけます。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	ふれあいサロンやふれあい給食、いきいき百歳体操などの通いの場において、フレイルチェックが行われ、長期欠席の方へは別途訪問されています。また、通いの場に出ておられない方、引き込んでしまわれる方への相談や訪問などに、地域の方々と共に取り組まれています。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	世話人の方の高齢化により、次の後継者が見つからず、後継者育成が課題となっています。自治会の話し合いに参加し一緒に手伝っていく意向を伝えていいるなど現在の取組みを継続され、次の後継者へと繋がることを期待します。

評価項目・着眼点	基本目標2: 困りごとを地域全体で受け止める体制の構築	
	(基本的な考え方) 日常生活圏域単位に市民に身近な場所への地域包括支援センターの設置を継続し、地域の高齢者、その介護者の生活スタイルに対応できる相談体制の強化を行います。困りごとを抱える高齢者やその家族への支援を行う中で、地域共生社会の実現に向けて、他との連携を進めていきます。	
	①	地域包括支援センターの相談機能強化
		地域包括支援センターの専門性を活かした相談機能を強化する。
②	世代や分野を超えた地域のつながりの構築	
	地域共生社会の実現に向け他分野との連携を強化する。	
センター   記入欄	取り組みの状況	①地域のつながりの大切さは、地域住民向けに講座や啓発する際にはメッセージとして伝えるよう意識しています。時には寸劇を交えながら分かりやすく啓発するように心掛けています。また保健師や社会福祉士等の専門職が配置された相談窓口であることも啓発しています。 ②地域の商店や警察、医療機関・郵便局等に訪問し、地域包括支援センターについて啓発しています。また、複合的な課題を有している世帯も多いので、保健センターや障害分野や生活援護室等など、多機関と連携して対応しています。最近は特に医療機関と連携し、総合相談の対応にあたることも多くなっています。
	現在課題と 感じていること	①徐々に啓発はできているものの、まだまだ多世代に対してのアピールが不十分と感じています。 ②介護保険制度だけでは解決できないケースが多くなっています。
	目標達成の ための今後の 取り組み	①今後も、寸劇を取り入れるなど分かりやすい内容を意識し、多世代に向けて周知を行います。 ②フレイルや認知症についても、通いの場の大切さを更に啓発していきます。 地域包括支援センターでケースを検討したうえで、必要な連携先を確認し、対応していきます。保健センターや障害分野、生活援護室等と更に連携の強化を図ります。
評価 調査 者   記入欄	評価で確認 した特徴的 な取り組み や工夫点	地域の郵便局から、介護予防の介護計画などを郵送することで、お便りを持参し、顔を合わせる機会をつくることに努められています。また、小学校へお便りを持参し、中学校で福祉学習として寸劇などを行うなど、地域への関心を持ってもらい、若い世代の方に、地域包括支援センターの活動や役割を知って頂ける取り組みが行われています。
	次のステップ に向けた 気づきや期 待したい点	複数の問題抱えた家族支援や、保健センターや障害分野、生活援護室、介護保険で担いきれない分野との問題が多くあり、他事業所との連携強化が望まれます。

評価項目・着眼点	基本目標3:地域で暮らし続けるための支援の充実	
	虚弱・軽度要介護者の重度化防止、自立支援のために、地域活動への参加など多様なサービスの活用を図ります。	
		多様なサービスの活用
	①	地域の通いの場や多様な主体で展開される介護予防生活支援サービス、在宅医療・介護の連携体制及び認知症高齢者等への支援に係るサービス(地域支援事業)を効果的に活用する。
	②	地域活動への住民参加や支援体制整備のための取り組み 地域ケア会議推進事業、生活支援体制整備事業、通いの場の充実、認知症の人への支援などの取り組みを通して地域の支援体制の充実を図っていく。
③	地域社会資源の開発とネットワークのための取り組み 高齢者が地域で暮らし続けるための社会資源を開拓していくとともに社会資源との連携が出来るようになる。	
センター記入欄	取り組みの状況	①介護サービスの担当者会議時には、利用者やケアマネージャーに対して、地域の通いの場やインフォーマルサービスの情報提供を行っています。 ②城乾・東地区では、生活支援体制検討会議を継続開催できています。野里・城東地区では、再開を目指して地域住民と検討しています。地域支えあい会議を通じて、地域住民や民生委員と個別ケースの対応を検討しています。 ③インフォーマルな社会資源情報を毎年更新しています。また、中部第一ブロック間で情報を共有し、適宜情報を修正して一覧表にまとめたものを居宅介護支援事業所に配付しています。
	現在課題と感じていること	①通いの場が地域内に均等にある状況ではないため、利用したくても自宅からの距離が遠いなどの理由で利用ができない実態があります。 ②地域住民やケアマネジャーから地域支えあい会議の開催依頼が少ない状況です。 ③あんしんサポーター制度のマッチング件数が少ないです。
	目標達成のための今後の取り組み	①地域の通いの場の必要性を啓発し、校区内の通いの場の増加につながるよう、地域住民に働きかけます。また、現在活動中の通いの場が継続できるように、定期的な訪問や相談対応に取り組みます。更に、通いの場が増えるよう地域住民に働きかけを継続します。 ②様々な機会を通じて地域支えあい会議を周知し、住民にとって身近な会議になることを目指します。 ③ケース対応を通じて、新たな社会資源の発掘や把握している社会資源情報の確認を行い、適宜変更します。あんしんサポーターの活用につながるよう啓発に取り組みます。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	城乾・東地区では、生活支援体制検討会議継続が開催できており、野里・城東地区では、会議再開を地域住民と検討されています。地域支えあい会議を通じて、地域住民や民生委員と個別事例を検討されています。インフォーマルな社会資源情報(トイレの状況、階段使用などの会場の様子)を毎年更新し、中部第一ブロック間で修正し、一覧表にまとめたものを居宅介護支援事業所に配布されています。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	通いの場が利用したくても自宅からの距離が遠いとか、階段があるなどの理由で利用ができない実態があり、環境の改善が望まれます。あんしんサポーター制度では、してほしい人とできる人のマッチングの改善に期待します。

評価項目・着眼点	<b>基本目標4：認知症とともに暮らす地域の実現</b>	
	認知症は誰もがなりうるものであり、認知症になっても、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる共生社会を目指します。また、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防（認知症になるのを遅らせる。認知症になっても進行を緩やかにする）に関する取り組みを推進します。	
	①	認知症にやさしい地域づくり 認知症サポーターが地域で活躍できる機会の充実を図る。認知症の本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う場を設置する。
	②	認知症になるのを遅らせるための取り組み 高齢者が身近に通える場等の拡充。通いの場を活用し、認知機能低下がある人や、認知症の人に対して、早期発見・早期対応が行えるよう、医療機関とも連携した支援体制の整備。
センター記入欄	③	認知症になっても地域で暮らし続けるための取り組み 認知症の種類や進行段階、生活環境に応じた適時・適切な医療・介護に提供が出来るようになる。
	取り組みの状況	①認知症サロンの場では定期的に、認知症予防の勉強会を行い認知症への理解を促しています。認知症になっても、いつまでも地域で生活ができるよう働きかけています。 ②認知症予防の為に、通いの場への参加を促し、早期発見・対応できるように支援しています。 ③認知症サロンやいきいき百歳体操の活動の場にて、認知症の勉強会や早期発見の必要性を啓発しています。
	現在課題と感じていること	①認知症当事者が通いの場に参加しにくい現状があります。 ②認知症が進行してからの発見が多い為、更に早期発見できる仕組みが必要です。 ③地域住民の認知症の理解が、不十分な状況です。
目標達成のための今後の取り組み	①引き続き認知症サロンの場で勉強会を行い、認知症になっても継続して通い続けるよう、住民の理解促進を図るとともにどのような助け合いができるのか住民同士が考える機会を意識して創り出します。 ②フレイルチェック等を通じて、早期発見につながるよう支援します。 ③地域住民に対して、認知症の理解を深め、認知症の人でも地域で安心して生活ができるように啓発に取り組みます。	
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	認知症サロンの場では定期的に認知症予防学習が行われ、姫路城郭センターにおいて、また牛乳配達の方々に認知サポーター養成研修を行っています。街中特有の問題に対応され、制度の活用につなげています。「ワンワンぱとろーる」として、犬の散歩している人たちを対象に、負担にならない地域見守りをさせていただき取り組みを考えられています。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	認知症が進行してからの発見が多い為、認知症当事者が通いの場に参加しにくい現状がうかがえます。今後は早期発見できる仕組みが期待されます。地域住民の認知症の理解が、まだまだ不十分であり、排除するような言動がうかがえます。今後は介護をする人を対象とした、家族支援を目標とする相談会などに取組まれることが望まれます。